

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600186		
法人名	住拓工業株式会社		
事業所名	グループホーム福寿草		
所在地	北海道苫小牧市本幸町1-3-5		
自己評価作成日	平成25年8月16日	評価結果市町村受理日	平成25年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとして求められておりますところの、残存機能の維持と認知症々状の進行予防の為、入居者の方々には調理、掃除、洗濯、その他屋外での軽作業等に出来る限り参加頂き、取り組んで頂いています。
また、事業所開設以来懸案事項でありました正面玄関の施錠の取り扱いに置きまして、今年に入りようやく日中の解錠実現に至っております。関係方面の皆様方からは賛否につきまして様々ご意見を頂いておりますが、事業所側と致しましてより行動制限のないサービスを目指し、又その為には介護職員ひとりひとりのスキルを高めていく事も目標としております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600186-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 9 月 6 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内には提示しているが、復唱したり確認したり等の機会は設けられていない。職員毎に意識の差があるかもしれない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの公民館へ出かけたり近所にお住まいの方のお庭の花等を見せて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症キャラバンメイト研修を受講しており、要請に応じて地域でのサポーター養成講座の講師を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	全てが活かす事が出来る訳ではないが、可能な限り取り入れる方向で前向きに考えている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者へ直接であったり、運営推進会議の場を使う等して情報提供や助言を頂く等の機会を積極的に設けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠は今年中止とした。身体拘束の内部研修会を実施した。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現場職員にて虐待防止の研修会に参加し、各職員へ研修内容についての報告や説明があった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修は行っているが、活用出来る為の支援等は行っていない。またそういったケースも今のところない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っており、事後においても不明な点等があれば遠慮なく問い合わせ頂くよう呼びかけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等特定の機会は設けていないが、随時意見や要望について受け付ける体制を組んでいる。また内容に応じて運営に反映させるかどうかの判断を行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々に対して、具体的な意見や提案を徴収する為の機会は設けてはいない。会議等の時間を用いて聞くように努めてはいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者との話し合いが全く出来ていない訳ではないが、代表者の意向により向上心に繋がる様な条件整備が出来ているとの判断は難しいと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者による職員の能力育成の為の機会確保（研修等の機会）は実際の所少ない。今後更に機会確保は必要だと思える。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年間定期的に行われている市内の同業者との研修会に参加し、意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない方へはより一層寄り沿う時間を多く設けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にもご家族にお会いし、何でも話してもらえそうな関係を作れるよう努めている。面会時にはなるべく細かく日々の様子をお伝えするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族がいちばん望む事をお聞きし、サービスに活かせるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	例えばソファに一緒に座り、世間話をしたり、近所の公園へ一緒に出かけお弁当を一緒に食べたり等、日々の暮らしの中で同じ場所で同じ時間を共に過ごす機会をなるべく多く持つ様になっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪された時に最近の状況をお伝えしている。ご家族より提供頂いた以前の状況等も職員間で共有し、共に		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今はなき家や、家族、建物の話をされても否定せず、共に楽しみながら話を進めて行くようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方々には一緒に外出する機会も設けさせて頂いている。誰とでもおしゃべりする機会が確保できるように、職員が入居者同士の間に入り取り持つ様に心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方との直接的な関係は終了してしまう事が大半だが、入院等で退所されたケースについては、折に触れお見舞い等でお会いする機会も随時設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩や買い物等の希望になるべく添い、実施している。困難な場合ご本人に十分事情を説明し理解を頂くようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前の情報については、事前に頂いている関係書類や一部ご家族への聞き取りなどで把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常と違う動作、当日の血圧状況、体調の良し悪しを記録に記入し、全員が目を通し把握して一日の業務を行う様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族が何気なく口にされている言葉やお話を受け止め、計画に活かせるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に細かく書き、業務開始前に全員が必ず目を通すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの美容室に引き続き通う事が出来る様、ご家族に確認しながらなるべく出来る範囲の事に対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公共施設において開催される展示会や音楽会等を鑑賞しに行く事がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望に合わせ、主治医を継続するかどうかの判断を行って頂いている。通院の介助も特別な事情がない限り事業所職員で対応させて頂いている。勿論結果もお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護ステーション看護師が定期的に訪問して頂いており、入居者の方々全ての健康相談に応じて頂いている。随時主治医と連絡調整を図った頂いたり、具体的な助言を頂く等している。また24時間いつでも電話応対して頂ける状況にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医等との情報交換を密に行っている。日頃からの状態変化について診察時等に情報提供すると共に、協力医や訪問看護ステーション等との医療連携体制が構築されている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護を行える体制ではあるが、これまで該当するケースはない。しかしながら今後可能性は十分あり得、その時に備えて勉強会等職員個々に学習させる機会が必王であると考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域で開催されている救命講習に参加させている。定期的な受講の機会確保によりいつ何時急変の事態が発生しても冷静に対応できるよう努めていかなければならないと考えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2階の避難訓練は実施できており、その際は運営推進会議も同時開催し、参加者の方々に訓練に参加頂いている。他近隣の住民の方々にも何らかの働きかけが必要と考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの性格や生活履歴を把握しながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	予め用意した選択肢の中から自由に選んで頂く機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度ご本人に尋ね、希望になるべく添う様に努力している。何においても入居者の方が優先という事を心がけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけご本人にその日着たいものを選んで頂き、服装の乱れ、極端な厚着や薄着、衣類の破損などがあれば声掛け等の対応をしている。お化粧品やパーマ、毛染め等の習慣がある方にはご家族の方の協力等も頂きながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえを職員と一緒に手伝って頂いている。下膳、食器拭き、テーブル拭き等も出来る方には見守りなどで行って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録化し1日単位で摂取している食事や水分量等が一目でわかるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食毎に歯磨きの促しと、週2回義歯洗浄剤を使用し義歯の衛生状態にも努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見てトイレへ誘導するなど、おむつ等は極力使わないで済む方向で対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取、繊維質のある食品を勧めたり、散歩等で適度な運動の機会を提供したりしている。中には医師との相談で便秘薬を処方して頂いている方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前入浴の他、職員体制が許せば午後からや夜間の入浴も実施している。現状では入浴における介助が全員の方が必要であり、随時希望する時間に入浴して頂く事は難しい状況である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状態を観察しながら、随時休憩の時間が確保できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用については医師や薬剤師からの情報や薬情を用いて確認するようにしている。服薬の支援については事前に幾つかのチェックを経た中で、残存機能を生かして行っている。日常の変化やそれに対する観察も密に行うよう職員へ周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天候が良い日等はなるべく屋外で過ごす機会を確保できるよう心がけている。また、買い物やゴミ出しなどの機会に入居者の方々に同行して頂く事も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を見ながら近所の公園等に散歩等に出かけている。行事では昨年好評を得た公共施設へ再度行く等の事も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行させて頂き、少額ではあるがお好きなものを購入して頂く機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は希望される方には作って頂いた。電話利用についてはご家族により捉え方がまちまちで全ての方が応じて頂けている状況でもない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースには季節のものなどの飾り付けを随時行い、雰囲気作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	読書の好きな方は支障にならないスペースの確保に努めたり、気の合った入居者同士がお茶を飲んだり、おしゃべり出来る様な場の設定を行う等している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のスペースは生活を送る上で支障のないよう、またなるべく馴染みのものを用意して頂けるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	居室入口には名札を掲示したり、トイレの認識が出来ない方もいる為目印を付けて認識しやすい様にしている。		